

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	3070103316
法人名	株式会社アニマート
事業所名	あさひの家
訪問調査日	平成 20 年 3 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月29日

【評価実施概要】

事業所番号	3070103316		
法人名	株式会社アニマート		
事業所名	あさひの家		
所在地	和歌山市和田115 (電話) 073-479-5566		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成20年3月4日	評価確定日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	9人, 非常勤6人, 常勤換算12.5人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(135,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4)利用者の概要(平成19年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	2	要介護2	3			
要介護3	8	要介護4	5			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	84.44	最低	66歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	稲田病院 谷口歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

落ち着いた色合いとモダンな造りで田園の中に立地している。東西のユニットを自由に行き来できる渡り廊下の左右には花壇と菜園があり、縁側が設けられ周りの田園風景と併せ四季を感じ取れる開放感あふれる場所となっている。リビングには大きな窓が設けられ日差しや風通しも良い。常勤職員が多く入居者一人ひとりに寄り添ったケアがされており、入居者は職員と仲むつまじくお喋りをしたり家事をしたり思い思いの時間をゆったりと過ごしている。外出の機会も多く芝居見物等も行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では改善課題は特に無くアドバイスを受けた部分は職員間で話し合い、出来るところから取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、話し合いの中で職員間のずれに気づく場面もあった。自己評価の意義の理解が深まり今後の意欲的な取り組みに繋がった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催されホーム内の報告や意見交換が行われているが市職員や地域の代表者は含まれていない。会議における地域密着型サービスのあり方の検討は今後の課題である。メンバーの中に自治会代表や地域包括センターの職員・地域の各種団体のメンバー等も加わってもらい地域とのパイプが太くなるよう期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の様子や行事などを掲載した「あさひ新聞」を送付している。家族の訪問が多くその際に日頃の様子を伝えると共に要望や意見を聞いている。訪問できない家族には手紙や電話により月に1度は様子等を報告している。家族会は無いが、事業所の行事の折々には家族同士話し合える場作りをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームは田園の中に立地していて近隣との繋がりを持ち難く開設当初は自治会への所属が難しかったが、昨年ようやく加入できゴミ当番や清掃も行っている。小学校の運動会への参加や、中学校の施設見学の受け入れ等は開設当初から続いている。ボランティアの訪問もあり、よい関係が出来つつあり、今後に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ユニット毎に全職員が共に考え作り上げた理念が入居者のなめらかな毛筆書きで玄関ホールに掲示されている。	○	地域生活の継続支援の事業所として地域密着型サービスの意義を理解し、地域との関係性を盛込んだ理念の付加再構築が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝礼時に職員全員で復唱し、理念に基づいたケアがされているか常に振り返り、話し合いながら、日々理念の反映に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域のゴミ当番や清掃に参加している。また地域の小学校の運動会への参加や中学校の施設見学の受け入れも行なっている。ボランティアの訪問も有り今後の交流にも期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は管理者と全職員で作成され、その過程で職員間のずれに気付き、今後の意欲的な取り組みに繋がった。また前回の外部評価の際に提案された箇所は職員間で話し合い、出来るところから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は医師や家族らの参加により、2ヶ月に1度の頻度で開催され行事等の報告や意見交換が行われている。	○	メンバーに自治会代表者や地域包括支援センター職員・地域の各種団体等にも加わってもらい、地域密着型サービスのあり方等の検討も含めて話し合うことが望ましい。地域とのパイプが太くなるよう交流促進に向けた取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会の集まりの中で市の担当者とサービスの質や向上に向けての話し合いをしている。	○	運営推進会議への参加要請の呼びかけも含めて機会を見つけて積極的な働きかけを行うことが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子や行事写真などを掲載した新聞を発送している。家族の訪問時に日頃の様子を伝え、訪問できない家族には電話や手紙で月に1度利用者の様子等を報告している。アルバムも作り家族に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に個別に面談し、要望や意見を聞く機会を作っている。また行事の折々には家族同士話し合える場作りに配慮し、話しやすい雰囲気作りを心がけている。外部の相談窓口の説明等もされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間での異動はまれに有るが利用者への影響には配慮されている。離職による交代での利用者にも与えるダメージは、引継ぎ期間を充分に取り、利用者や家族に説明し、職員間で工夫・協力し最小限に抑えられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはできるだけ参加できるように職員間でスケジュールを調整し、積極的な参加に向けて費用負担は事業所が行っている。研修の参加後は報告書を作成し、職員間で共有出来るよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の相互研修に参加したり、交流のあるグループホームと連絡を取り合い、意見や情報の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に自宅を訪問し本人や家族・関係者等と充分話し合い見学もしてもらう。入居間もない利用者には全職員でアセスメントの情報を共有して支援に取り組むと共に家族に働きかけて訪問を多くしてもらい、不安なく過ごせるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として尊重し入居者から元気づけられることもある。職員と入居者が食事の支度をしたり洗濯物を畳んだり和気藹々と過ごしており、共に支え合い楽しんで生活が出来るよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を大切にして会話の時間を多く取り、表情や会話の中から利用者一人ひとりの思いや意向の聞き取りや汲み取りに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との日頃の生活の関わりの中で気付いた点や聞き取った思い、意向を大切にしている。家族の意見も聞きながら、全職員でモニタリングを行い、意見交換をし介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が見受けられた時は家族に説明し相談しながら見直しを行っている。家族から訪問時に利用者の意向等を聴き出してもらい、毎月開かれる処遇会議に於いて職員全員で話し合い、現状に即した計画作成に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望に応じて、家族宅への送迎や通院など柔軟な支援を行っている。	○	地域の避難場所としての活用や認知症の理解について地域に向かって発信していく事など、広い意味で、どんな事ができるのかという原点に立ち返った上で、改めてホームの潜在能力を引き出していけるように期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医に入居前と同じように受診してもらったり、状態により往診に来てもらっている。受診に際し、家族の同行が無理な場合や緊急時には職員が代わって同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人や家族の意向を聞き、要望に応えられるよう主治医の意見や説明を聞きながら、状態に合わせた最大のケアが出来るよう職員間で話し合い方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者を人生の先輩として尊厳をもって接している。言葉かけや対応は適切で、排泄介助等もさりげなく誘導され、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮されている。入浴や排泄介助は同性介助を基本としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切に、その時々々の希望や状態に合わせた支援を優先するよう、職員間で調整し合い臨機応変に対応している。また入居者の「したくない」気持ちも大切にしながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物や献立作り・調理・盛り付け・配膳・片付け等、利用者の得意な事や出来る事を一緒にを行い職員も一緒に食事をしている。また入居者と中庭で育てた野菜や釣ってきた魚が食卓に上がる事もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間に捉われず、入居者の希望にあわせ好きな時に入浴が出来るよう支援されている。ゆっくり寛げるよう配慮し、仲の良い者同士の入浴や、拒む入居者への対応も工夫しながら支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や配膳・片づけ・洗濯物干しや取り入れ、畳み等の役割や出番に加え、書道・生け花・魚釣りなどの趣味の楽しみごとを喜びや張り合いに繋がる様支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や入居者の気分に合わせて、散歩やドライブ、喫茶店、外食等や日頃見る機会の少ない芝居見物にも出かけ、積極的に戸外に出かける支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵を掛けずチャイムを取り付け自由に出入り出来るようにしている。一人ひとりの外出傾向を把握し見守りや声かけに努めている。時には探しに回る事も有るが、鍵の掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年2回の避難訓練を実施し、定期的に職員間で具体的な避難に向けての話し合いをしている。消火器等の点検も定期的に行っている。防災マニュアルは作成されているが、開設時に作られたものである。	○	ホームに起こり得るリスクを改めて想定し総合的な防災計画を立てた上で実効性のある訓練等の実施と現状に即したマニュアルの見直しが期待される。また立地的に災害時の物資の確保が難しく、食料品等の備蓄も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し、残食量は必要に応じて記録を執り、職員間で情報を共有している。おやつの時間の飲み物のほか居室にもお茶を用意し必要量が確保出来るよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールには入居者の生けた花が飾られフロアの壁面には入居者の写真や作品が掲示してある。大きな窓のリビングと炬燵とテレビが置かれた和室の居間は明るく落ち着いた家庭的な雰囲気である。ホームで飼っている犬も和みを添えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ごとにドアの色を変え分かりやすい名札を掛けるなど利用者への配慮が窺える。部屋の中には洗面とトイレが設置されている。使い慣れたテレビやタンス等も置かれ、居心地よく暮らせるよう細やかに支援している。		